

中間評価（表紙）

内子町 歴史的風致維持向上計画(令和元年6月12日認定)
中間評価(令和元年度～令和5年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的建造物の保存・活用.....	3
II 歴史的建造物の周辺環境の保存・整備.....	4
III 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承.....	5
IV 歴史的資源の調査研究、周知・啓発.....	6
V 住民参加の歴史まちづくり.....	7
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 歴史まちづくりにつながる住民主体の取り組みの増加.....	8
ii 観光統計における外国人観光客の増加.....	9
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 旧森家住宅整備事業.....	10
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 在郷町内子・五十崎にみる歴史的風致.....	11
2 小田川が結ぶ小田林業と山とともにある営みにみる歴史的風致	12
3 里山が育む村並みにみる歴史的風致.....	13
4 大瀬「森のなかの谷間の村」の営みにみる歴史的風致.....	14
5 街道、遍路道にみる歴史的風致.....	15
■ 庁内体制シート(様式6).....	16
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	17
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	18

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～R5年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	在郷町内子・五十崎にみる歴史的風致	I、II、III、V	
2	小田川が結ぶ小田林業と山とともにある営みにみる歴史的風致	I、III、V	
3	里山が育む村並みにみる歴史的風致	I、II、III	
4	大瀬「森のなかの谷間の村」の営みにみる歴史的風致	III、IV	
5	街道、遍路道にみる歴史的風致	III、IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の保存・活用		
II	歴史的建造物の周辺環境の保全・整備		
III	伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承		
IV	歴史的資源の調査研究、周知・啓発に関する方針		
V	住民参加の歴史まちづくり		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歴史まちづくりにつながる住民主体の取り組みの増加		
ii	観光統計における外国人観光客の増加		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	旧森家住宅整備事業	歴史的風致維持向上施設	

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～R5年
方針	I 歴史的建造物の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

八日市・護国の重伝建地区以外にも文化財指定外の歴史的建造物が多く、詳細調査や保存改修が未実施のものがある。空き家も多く、今後は取り壊しや建て替えが進むと予想される。所有者の高齢化、相続等による管理難、伝統工法の担い手不足など問題は山積している。

それらの解消のため、文化財保護法や条例に基づく指定文化財、また指定外建造物もその価値を示しながら保存・活用を図り、地域性や風土を反映した「内子らしさ」の保持を目指したい。併せて担い手育成、交流人口の増、町産材の活用など、産業創出につながる仕組みを構築する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的風致形成建造物の修理・活用	旧森家住宅では計7回のワーキングを開催、見学会などを経てR6年度に1期工事が始まる	あり	R2～R10
2	八日市護国伝統的建造物群保存地区保存修理事業	R元年から保存修理修景10件、保存修理事業33件を実施。地区内建造物の保存・活用を継続中	あり	S57～R10
3	重要文化財内子座修理事業	内子座保存活用検討委員会を6回実施し、修理方針を協議。R6年度から工事を開始	あり	R2～R7
4	歴史的建造物の建物調査等	5棟の建物調査を実施。旧高橋家住宅など6件が登録有形文化財に登録された	あり	R2～R10
5	伝建地区の防災対策の検討	毎年1回防災訓練を実施し、延べ約150人が参加した。防災水利の確保が課題として残る	あり	R元～R10
6	伝建地区の地区拡大の検討	周辺地域の建物等の調査を進めているが、地区拡大の検討については具体的な進展なし	あり	R2～R10
7	伝統的建造物の保存及び活用に関する地域ルールの作成及び運用	香川大学創造工学部の協力で調査・研究を進めている。その成果は旧森家住宅の改修で採用予定	あり	R元～R10
8	歴史的建造物と林業との関連施策の検討	保存修理の木材の一部で町産材を使用	あり	R元～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

1～4_歴史的建造物関係

重要文化財「内子座」の修理事業では、内子座保存活用検討委員会にて耐震補強の手法などについて慎重に調査・協議を重ね、修理方針を定めた。歴史ある芝居小屋の空間を残す方法で工事を開始する。また建物調査を実施した旧高橋家住宅が登録有形文化財に登録された。今後も住民との協議や専門家の協力等、様々な方法で活動や情報を広げて、建物の価値を示しながら、保存・活用に向けて事業を進めたい。

5～8_歴史的建造物を取り巻く環境について

伝建地区の防災対策は年1回、消防署や地元消防団と防災訓練を実施し、住民の意識向上に努めている。伝建地区の地区拡大や、地域ルールの作成及び運用については、あまり進展がなかった。計画策定時から状況が変わったこともあり難しい面が多々あるが、限界耐力計算による耐震工事の採用など、できることから進めていきたい。



内子座調査工事（R2年度）



旧高橋家住宅の外観

④ 自己評価

歴史的建造物の建物調査等により、登録有形文化財の登録数が増えるなど、保存と活用に寄与することができた。保存地区の保存修理修景事業も着実に実施され、内子らしさの保持につながっている。

⑤ 今後の対応

昭和57年から続く町並保存運動を継続し、内子の歴史的風致を次代につなげる。そのためにも、旧森家住宅の整備・活用などにより交流人口を増やし、地域経済の活性化につながる取り組みを広げていきたい。伝建地区の拡大や地域ルールの作成など、進捗が芳しくない項目もあるので、検討方法等を見直しながらか文化財や歴史的風致形成建造物の円滑な活用と保存を図りたい。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～R5年
方針	Ⅱ 歴史的建造物の周辺環境の保全・整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本町の重伝建地区の面積は約3.5ha。歴史的建造物を活かしたまちづくりのフィールドは限られている。周辺では景観コントロールが行き届かず、歴史的環境との調和がとれていない景観が見受けられるほか、都市計画行政と歴史まちづくり行政における連携が不十分など、周辺環境の保全・整備に関する課題は多い。農村景観の保全についても担い手不足が懸念されている。今後は景観まちづくり計画や観光振興対策、景観農業振興地域整備計画等との連動により、商店街活性化や農林業施策との連携を強化し、全町的な歴史的環境整備を進めたい。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的建造物周辺地区の修景等環境整備	街路灯設置の実証実験等を行い、無電柱化と併せて整備する予定。小公園整備をR6年に実施	あり	R2～R10
2	空き家対策の実施	旧事業により2店舗がオープン。新事業「内子町はじめる・つなぐ商工活性化支援事業」で7件を改修	あり	H30～R10
3				
4				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

1_歴史的建造物周辺地区の周辺等環境整備

伝建地区と隣接する工場跡地の小公園整備について、意見集約をするためのワークショップを全3回開催。社会実験として住民主体のマルシェを2回開催した。無電柱化は電力会社の協力により動き始めたが、当初よりも遅れている。街路灯の整備は時期を合わせて実施する予定。実証実験など住民参加による歴史まちづくりの意識を醸成しながら、歴史資源を生かした魅力的な空間を創出する。



小公園ワークショップの様子

2_空き家対策の実施

令和4年度に「内子町はじめる・つなぐ商工活性化支援事業」を新設し、7件の事業を実施した。しかし、空き家の活用という面では成果が出ているが、歴史的風致の維持という面では課題が残る。令和5年度に歴史的風致形成建造物の候補物件が2棟も取り壊されたため、さらに商店街活性化や農林業施策との連携を強化し、周辺環境の保全・整備することが重要。

vol.1 2023.5.11 坂町の広場を考える通信

Letter of Workshop Sakamachi-Flace

坂町の広場を考える会を開催！

5月11日、町・農産センターにて、町民、町議会、個人・法人、農協、観光協会、関係機関の協力を得て、坂町の歴史と未来をテーマに、町民主体のワークショップを開催しました。町民約70名が参加し、坂町の歴史と未来をテーマに、町民主体のワークショップを開催しました。町民約70名が参加し、坂町の歴史と未来をテーマに、町民主体のワークショップを開催しました。

空き地利用のこれまでの流れ

2021 2022.8 2022.10 2023.6 2023.7

2021年、2022年、2023年と連続して、坂町の歴史と未来をテーマに、町民主体のワークショップを開催しました。町民約70名が参加し、坂町の歴史と未来をテーマに、町民主体のワークショップを開催しました。

小公園の検討内容を伝えた瓦版

④ 自己評価

歴史的風致維持向上計画推進協議会のワーキンググループや、住民ワークショップの開催を通じて、整備内容の検討を行ったことで、歴史的な価値を高めながら利活用しやすい計画を策定することができた。しかし、歴史的風致形成建造物の候補物件2棟が取り壊されるなど、建物所有者の文化財等への関心を高める取り組みが必要。

⑤ 今後の対応

文化財的な歴史的建造物が保存・活用される一方で、周辺地区の文化財指定外の建物の取り壊しが進んでいる。活用されずに老朽化が進み、取り壊す道しか残されていない現状を打破するため、古民家の清掃や片付けをするボランティア組織を立ち上げる。きれいになった建物をイベントなどで活用することで、所有者に取り壊す以外の選択肢があることを伝えていきたい。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～R5年
方針	Ⅲ 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的建造物の取り壊しは、左官などの伝統技術の継承を困難にし、地域の技術者減少や高齢化につながる。五十崎の和紙や大凧作りの技術も同様に継承が難しく、祭礼行事の後継者不足と人口減少が地域独自の伝統を脅かしている。継承に関する方針としては、文化財の修理には伝統工法を取り入れ、現代の利便性と組み合わせることで技術継承を促したい。修理現場の公開や体験などから、職人の技術や知恵などを共有する機会を設けるなど、担い手育成にも力を入れる。伝統行事や郷土芸能なども同様に、意義や魅力を共有する機会を設けたい。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	職人の技術等、担い手育成事業	奨励金交付者数延べ10人。大洲和紙製造などの伝統技術の担い手の移住・定住につながっている	あり	H17～R10
2	伝統行事等の継承の支援	内子町伝統芸能（延べ14団体203人が参加。延べ800人来場）。立川神楽出前事業を実施	あり	H25～R10
3	習慣、風習等の継承及び再現事業	愛媛大学の学生が小田深山に関する動画とマップを制作。南山自治会が地域誌『我がふるさと南山』を発行した	あり	R2～R10
4				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

1_職人の技術等、担い手育成事業

「匠づくり奨励金」により最大3年間、伝統産業の後継者育成を支援。桐下駄については、工場の火災により後継者の育成を断念したが、大洲和紙製造技術者、茶の湯炭製造技術者については技術を習得し、貴重な担い手として活躍している。

2_伝統行事等の継承の支援

毎年、伝統芸能まつりを開催し、5年間で約800人の来場があった。愛媛・大分交流事業などとも連携しており、他地域との交流が活動継続の意欲向上につながっている。

3_習慣、風習等の継承及び再現事業

愛媛大学の協力で、小田深山の森林鉄道や、小田地区にあった各芝居小屋の調査などを行った。現存するものがほとんどないが、当時を知る人がいるので、ヒアリング調査を実施。展示発表をするなど歴史の掘り起こしや再現をすることで、地域の特性や文化への理解を深めた。また途絶えかけた燈籠まつりや、いかざき花火まつりなどが若い世代の手によって受け継がれた。



茶の湯炭製造技術を学ぶ若者



地域の若者が継承した花火大会

④ 自己評価

各事業の実施により、若者や子供たちが伝統的な技術や芸能を体験できる機会を増やしている。「匠づくり奨励金」で技術を習得した若者が新たな企画を実現したり、途絶えかけた燈籠まつりや、いかざき花火まつりが若い世代の手によって受け継がれたりなど、取り組みの継続が歴史的風致の維持・向上につながっている。

⑤ 今後の対応

コロナ禍で途絶えた伝統行事もあるが、燈籠まつりや、いかざき花火まつりなどのように若者の手によって復活したものもある。幼少期の体験が伝統文化の継承につながるがよく分かる出来事であった。少子高齢化により、後継者の育成はどんどん難しくなるが、地道な活動に引き続き取り組んでいきたい。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～R5年
方針	IV 歴史的資源の調査研究、周知・啓発	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

「町並み保存運動」で歴史的まちづくりの先駆けとなっている本町だが、歴史的風致維持向上に必要な調査研究、公開活用、講座開催などの学芸活動が人員不足で十分にできていない現状がある。教育分野では歴史的資源の活用に地域差がある一方で、要求があった場合に提供できる資料や環境が少ない。対外的な周知・発信も限定的である。そこで専門職の配置などで体制の充実を図りつつ、基礎となる歴史的資源の調査を進める。収蔵資料もデジタルアーカイブ化し、活用や公開をしやすくする。展示や講座を通じて住民意識を高め、学芸サポーターやガイド、語り部を育成。教材・資料等の整備や連携につなげる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	中世城館跡等、遺跡・文化財調査事業	6箇所の現地踏査を合計7回実施。見学会や意見公開会なども2回実施して住民の興味を深めた	あり	R元～R10
2	博物館歴史展示・講座等の実施	伝統文化施設の企画展6回開催（延べ13,100人来場）。凧作りなど体験学習などを多数実施	あり	R元～R10
3	町蔵資料のデジタルアーカイブ化	資料のデジタル化は全体の3割ほどが完了した。システムの業者選定のため先進地視察を進めている	あり	R元～R10
4	博物館ボランティア(学芸サポーター)育成事業	月1回の古文書整理活動を実施。内子れきみん班を立ち上げ、3回の活動を行った	あり	H24～R10
5	歴史的資源の周知・活用	町並ガイドの会(600組、8、158人)、多言語化案内看板のサイトアクセス数12,778回	あり	R2～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

1_中世城館跡等、遺跡・文化財調査事業

専門家と現地の方の協力で、中世城館跡6カ所の現地踏査を行った。各城館跡の縄張り図を作成するなど、歴史的資源の基礎となる調査を進めた。教育委員会が実施している「ふるさと学」のテーマになるなど、すそ野が広がったほか、居倍野城跡の保存活動が活発化するなどの成果が見られた。



地元有志によって保存・整備がされている居倍野城跡の見学会(R2)

2～5_博物館歴史展示、講座等の実施など

伝統文化施設の企画展などを6回開催し、約1万3,000人が来場した。新しく立ち上げた学芸サポーター「れきみん班」では、中高生2人も入り、幅広い世代で調査活動などを進めている。それぞれの活動を通じて住民意識が高まり、人材育成にもつながっている。町蔵資料のデジタルアーカイブ化も公開に向けて順調に進んでいる。



ストールを櫛染する体験イベント

④ 自己評価

学芸員が増員され、各項目で活発に事業が展開された。特に博物館歴史展示・講座等では町内外から多くの来場があった。山城の整備を進める保存会や、新たに立ち上げた「れきみん班」などの精力的な活動もあり、地元への愛着や理解を深めることにつながっている。

⑤ 今後の対応

各項目を担当する学芸員が着実に実施することに加え、庁内に「学芸連携会議」を立ち上げるなど、学芸員等の横のつながりを強化していきたい。学芸員による自主企画展を開催するなど、さらに歴史的資源の調査や周知・啓発に力を入れていく。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～R5年
方針	V 住民参加の歴史まちづくり	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史まちづくりにおける住民参加には具体性が欠け、活動に偏りがある。自治センターや自治会で関連する取り組みがあるものの、町全体での一体的な意識や参加を促す拠点は存在しない。さらに、住民が歴史的環境の価値を主体的に実感・享受する場所や機会も限られている。住民が歴史まちづくりに参加できる拠点をすることで、議論を行う場や気軽に集まれるようにしたい。施設については歴史的建造物の活用を含めて検討する。また地元企業や学生、専門家などと連携し、まちづくりに関する資料などの集積機能を持つ組織を確立し、人材育成や、地域住民の意思醸成を推進したい。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	UDCなどまちづくり拠点・組織等の整備	3市の先進地研修を実施するなど、旧森家の活用と併せて検討中。サウンディング型市場調査を実施	あり	R2～R10
2	高校生ビジネスプランコンテストの開催	「内子歴史まちづくりプロジェクト」が中心となり、高校生を対象としたビジネスプランコンテストを開催	なし	R5～
3				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

1.UDCなどまちづくり拠点・組織等の整備

まちづくりの拠点・組織をつくるため、職員等で福井県坂井市の「アーバンデザインセンター坂井」などの先進地視察を行った。検討の過程でイベントやワークショップを重ねることで、まちづくり拠点としての活用方法を実践している。また、サウンディング型市場調査を実施するなど、4事業者から活用や運営について話す場を設けた。中心となる組織の立ち上げにもつなげたい。



旧森家住宅を特別に公開した「森家ノかいまみ」の様子（R元年）

2.高校生ビジネスプランコンテストの開催

旧森家住宅の近隣には学校が多く、高校生や子どもたちとの関りも重要なポイントになる。高校生を対象としたビジネスプランコンテストには5チーム・18人が参加。旧森家をテーマにしたビジネスのアイデアを競い合った。整備の中で高校生のアイデアなどを実現することで、若者が参画・利用できる拠点を目指す。



ビジネスプランコンテストのキックオフで森家について学ぶ高校生（R5年）

④ 自己評価

組織の立ち上げはできていないが、ワークショップやビジネスプランコンテスト、サウンディング型市場調査を実施する中で、まちづくり拠点の候補地である旧森家住宅の関心を高めている。地域住民はもちろん、高校生や大学生、事業者などが参画し、町全体での一体的な意識や参加を促す拠点づくりに向け、段階的に取り組めた。

⑤ 今後の対応

アーバンデザインセンターという形態でよいかということを含め、住民との協議や活動を深めていきたい。また東大生を中心とした内子まちづくりプロジェクトと協力し、まちづくりや歴史資源の情報の集積活動を継続したい。古民家守り隊（仮称）の活動やビジネスプランコンテストなどを積極的に展開することで、地域の活性化を図りながら歴史的風致の維持向上に寄与する。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年
効果	i 歴史まちづくりにつながる住民主体の取り組みの増加		

① 効果の概要

内子町の歴史的風致の魅力を強みとした住民の取り組みによる相乗効果

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2期内子町総合計画	あり	H26～R6
2	内子町景観まちづくり計画	あり	H20～
3	地域一体型事業計画書	なし	R5～

歴史的な資源や環境を活かしたまちづくりを続けている内子町。町の歴史や個性は、そのまま町の価値や魅力でもある。長年の取り組みによる住民意識の変化は、地域の活力や歴史まちづくりへの理解を生むだけでなく、新しい地域の活動やビジネス機会の創出にもつながっている。

③ 効果発現の経緯と成果

・施策間の相互補完や効果の発現について

令和5年9月に実施した「内子町総合計画・総合戦略のための住民のアンケート」の中で、「内子町をPRするための言葉」に関する設問の回答をテキストマイニング(※)した結果、「自然」「風景」「歴史」「文化」「伝統」などに関連するワードを選択した住民が多かった。住民の潜在的な意識の中に歴史的風致があることが分かる結果となっている。また実際の民間の取り組みとして、古民家を改修したゲストハウス&バーやパン屋など、歴史的風致の魅力を活かそうとするものが増えていく。さらに令和5年度に策定された「地域一体型事業計画書」では、歴史的建造物や自然の豊かさを地域の強みとして面的な整備を計画。古民家などを活用した宿泊施設など、6棟の高付加価値化改修のほか、文化や自然に触れるE-BIKEの体験ツアーなどを盛り込んでいる。ここ数年はデザイナーやカメラマンなど従来の内子町にはあまり存在しなかったスキルを持つ人も移住してきている。長年のまちづくり活動の積み重ねが土台となり、さらに魅力ある町として発信される機会が増えたことは、大きな相乗効果ととらえている。

※テキストマイニング: AIによる自然言語解析の手法で、単語の出現頻度や相関関係を分析することで有益な情報を抽出することができる。



テキストマイニングで抽出された単語



古民家を改修したゲストハウス&バー

④ 自己評価

歴史的風致の維持・向上の取り組みを続けた結果、一面としてはあるが、アンケートの結果や歴史まちづくりの中で住民意識としてその大切さが伝わっているという事例である。

⑤ 今後の対応

歴史的風致を維持していくためには、住民の皆さんの意識や取り組みが重要である。歴史的風致維持向上計画の着実な推進に加え、継続的に住民が参加しながら町の文化や歴史を積み上げていけるよう支援や仕組みづくりを行っていききたい。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年																
効果	i 観光統計における外国人観光客の増加																		
<p>① 効果の概要</p> <p>外国人観光客がコロナ前の令和元年と比べて倍増</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第2期内子町総合計画</td> <td>あり</td> <td>H26～R6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>内子町景観まちづくり計画</td> <td>あり</td> <td>H20～</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>内子町八日市護国伝統的建造物群保存地区保存計画</td> <td>あり</td> <td>S56～</td> </tr> </tbody> </table> <p>「内子町八日市護国伝統的建造物群保存地区保存計画」を礎に推進されている内子町のまちづくり。村並み・山並みまで美しい持続的に発展するまちを目指し、歴史的風致の維持向上にも努めた結果、外国人旅行者にとっても魅力的な町になりつつある。令和6年度の策定を目指す「観光振興計画」では、内子町固有の歴史・文化資源と物語性を活かしたニューツーリズムを検討するなど、効果の継続・拡大が期待される。</p>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	第2期内子町総合計画	あり	H26～R6	2	内子町景観まちづくり計画	あり	H20～	3	内子町八日市護国伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	S56～
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	第2期内子町総合計画	あり	H26～R6																
2	内子町景観まちづくり計画	あり	H20～																
3	内子町八日市護国伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	S56～																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>・施策間の相互補完について</p> <p>外国語ガイドの会や、英語サイトの新設など、歴史的資源を生かした質の高いおもてなしができています。外国人観光客の増加は交流人口の増加や、町内の理解者・支援者の広がり期待できることから、歴史的風致の維持向上と相互補完の関係にある。邦人観光客の街歩きガイドの充実にもつなげたい。</p> <p>・効果が発現した主な成果</p> <p>邦人観光客数は緩い回復傾向であるが、外国人観光客は令和元年の5,067人から倍以上となる13,619人となっている。</p> <p>令和5年度に実施した「内子町観光マーケティング調査・分析業務」の調査報告書によると、外国人観光客の推奨意向を分析するNPSが「42.8」（邦人は23.5）と高いことが分かった。NPSについては、観光戦略プランのKPI指標として設定し、定期的に調査を行う方針。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>令和4年頃から英語版HPやInstagramによって、内子町を代表する歴史的風致の写真が多数紹介している。韓国・松山の直行便の効果は大きいですが、観光マーケティング調査で約4割の外国人が情報源として英語版HPを活用していることも分かった。歴史的風致を維持・向上させることが、外国人に内子町らしい輝きを観てもらえることにつながっている。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>外国人観光客数の内訳は、多い国から韓国、オランダ、ドイツ、フランス、台湾と続くため、英語以外での対応が必要。デジタルサイネージの導入などで外国人旅行者の不便さを解消しながら、文化の違いによるトラブルも防ぎたい。等の調査を継続して、来町者の満足度を高めながら、外国人の目から見た内子町の歴史的風致の魅力も磨いていきたい。</p>																			



内子町観光協会の「HANAYOME」体験



内子座を案内するボランティアガイド

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～5年
取り組み	A 旧森家住宅整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>【建物の概要】 旧森家住宅は、内子町の歴史的風致形成建造物の認定第1号となる建物。約550坪の敷地内に、明治期以前の5棟を含む7棟の建物が残る。特に客座敷と庭をはさんで建つ茶室は、江戸後期から明治・大正と発展した煎茶文化の影響を受けており、通り沿いの商業空間と、奥の接客空間が一体となって残存している。</p> <p>【整備内容等の概要】 地域の伝統や暮らしの知恵、食などの内子らしさを未来へつなぐ交流施設として整備する。近年では建造物の空き家化・取り壊しが進んでいるため、それらの再生・活用を推進する組織の拠点としても活用したい。広い敷地を「のきした」「えんがわ」「にわさき」の3つのゾーンに分けて整備する予定。商店街と隣接する「のきしたゾーン」では、内外のにぎわいを創出し、中心となる「えんがわゾーン」では、来訪者と地域の人たちが集い、交流できる場所にする。「にわさきゾーン」は地域に開かれたスペースで、日常的には駐車場として利用しながら、イベントや広場としても活用できるようにしたいと考えている。</p>			
		 <p>旧森家住宅の現況</p>	
		 <p>令和3年に実施した旧森家見学会</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>住民との協議を重ね、活用方針として①歴史を受け継ぎ、活かす、②まちに開く、③情報をやり取りする、④人、ものを育てる、⑤新しいことを生み出す— の5つの柱を立てた。その方針のもと、特別公開「森家ノかいまみ」や地元自治会向けの見学会、実証実験「庭カフェ」などを実施し、情報共有や意見交換を重ねながら整備の基本計画を作成した。令和5年度には、実際に運営する事業者選定を視野に公募型サウンディング市場調査を行い、経営や活用の視点で意見やアドバイスを求め、実施設計に反映させた。7棟の建物があるため工期を3年に分けて整備する予定。地域住民との協議を継続し、歴史まちづくりの拠点としてふさわしい施設にしたい。</p>			
外部有識者名	國學院大學 教授 米田 誠司		
外部評価実施日	令和5年5月21日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>この地域はかつて重伝建地区への選定も検討されたことがあり、往年と現代をつなぐ拠点施設としての可能性を秘めています。特に旧森家住宅は、江戸時代から大正時代にかけての時代の蓄積が重要な価値を持っています。建物の清掃活動を皮切りに、地元住民や事業者だけでなく、大学生や高校生も含めた多くの人々がコアな活動や議論に参加しています。これらの議論はじっくりと時間をかけて深められ、結果としてフィージビリティの高い活動へとつながっています。保全と活用の良いバランスが見つかれば、この取り組みは全国的にも優良な事例として紹介される可能性があります。</p> <p>今後の対応としては、これまでの議論に時間をかけた分、計画の実施には迅速を期すことが求められます。また、歴史的建造物の保全にも可能な限り努めながら、これらを現代に伝える体験・交流型の施設として活用することを目指してください。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>米田先生のコメントにあるとおり、迅速に計画を実施していきたい。そのために必要な手続きや協議もあるので一つ一つクリアして、往時と現代、未来へとつなぐ歴史まちづくり拠点としてふさわしい施設を目指す。</p>			

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年
歴史的風致	1. 在郷町内子・五十崎にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 II 歴史的建造物の周辺環境の保全・整備 III 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承 V 住民参加の歴史まちづくり		
<p>① 歴史的風致の概要</p> <p>内子と五十崎の中心部は江戸期頃から始まった和紙や木蠟の生産で栄え、交通の要衝としても発展して「まち」が形成されてきた。ここでは、①在郷町の佇まいをつなぐ町並みとその保存、②地域に根付く手漉き和紙と大凧合戦、③時を超えた芝居小屋、④地域の味、醸造業、⑤内子・五十崎の祭礼——の5つの視点で歴史的風致を位置づけている。八日市護国地区の町並みや内子座などの建造物、手漉き和紙や酒造りの伝統技術、凧合戦や秋祭りなどの文化が歴史的風致として受け継がれ、その繁栄を今に伝えている。</p>			
<p>② 維持向上の経緯と成果</p> <p>《町並保存（歴史的建造物の保存・活用）》 八日市護国伝統的建造物群保存地区内において、令和元年度から保存修理修景10件、保存修理事業33件が実施された。住み継がれることで人々の暮らしや職人の技など、生き生きとした町並みが守られ、町全体の魅力向上に大きく寄与している。</p> <p>《景観まちづくり（歴史的建造物の周辺環境の保全・整備）》 景観まちづくり計画では、町内全域を計画計画区域とし、建築物・工作物・屋外広告物に対する規制・誘導等を行っている。令和元年度からの行為の届出数は193件、屋外広告物許可申請数は70件。その都度、指導や助言をし、内子らしい景観形成が図られた。</p> <p>《各地域の伝統行事（伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承）》 コロナ禍で中断されていた町並保存地区の観月会や、内子本町商店街で開催される「笹まつり」、小田川が会場となる「いかざ大凧合戦」や「いかざき花火大会」などが、住民の手によって伝統行事が再開された。歴史ある風景を舞台に行われる伝統行事は、内子町を象徴する歴史的風致として再認識できる機会となった。</p>			
<p>③ 自己評価</p> <p>保存地区の修理修景事業や、町内全域の景観まちづくり計画による建築物や屋外広告物の規制・誘導により、内子らしい景観形成が図られている。少子高齢化の中、形を変えながらも伝統行事を続けることが歴史的風致に触れる機会となり、今後の活力となっている。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>方針に従って事業を進め、登録有形文化財の登録数や、体験事業、企画展による交流人口の増などの効果が見られた。ただし、指定以外の歴史的建造物の保存について課題が残るため、さらに調査等を進めて、建物の価値を示しながら保存・活用を図る。伝統産業や伝統芸能については、担い手の育成につながるよう、体験事業や情報発信に力を入れ、その意義や魅力を共有する機会を設けたい。</p>			



八日市護国伝統的建造物群保存地区

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年
歴史的風致	2. 小田川が結ぶ小田林業と山とともにある営みに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 III 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承 V 住民参加の歴史まちづくり		

① 歴史的風致の概要

内子町の林業は藩政期までさかのぼる。特に小田地区においてはカエデやブナなど、林産資源の豊富であった小田深山からの搬出が盛んに行われていた。当時の林業において小田川の存在は大きく、木材を筏に組み「筏流し」で大洲・長浜の河口まで運んでいた。筏流しは川登地区の「川まつり」で再現され、その技術を今に受け継いでいる。また、小田地区では旧二宮製材所事業所兼主屋などの林業に関する建造物の保存や、山の神祭りや巨樹・巨木の保存などに取り組んでいる。

② 維持向上の経緯と成果

《旧二宮製材所事務所兼主屋（歴史的建造物の保存・活用）》

令和2年3月に岡山理科大学の江面教授による建物の痕跡及び歴史的価値等の調査を実施。翌年10月14日に登録有形文化財に登録された。旧二宮製材所事務所兼主屋は昭和17年（1942年）建築の林家の町家で、ケヤキの巨樹の一枚板の床の間や建具、マツ材の大黒柱など、小田深山の良材が使われた重厚な造りとなっている。令和3年に内装を一部改修し、1日1組限定の宿としても活用。林業で栄えた町並や大工の技を次代に伝える場所として保全が図られることとなった。



改修した旧二宮製材所事務所兼主屋

《旧森林鉄道の調査活動（住民参加の歴史まちづくり）》

令和2～3年度、愛媛大学社会共創学部井口研究室の学生が、1923～1952年の間に小田深山で稼働していた旧森林鉄道に関するヒアリング調査と現地調査を実施した。対象は当時を知る住民約10人で、鉄道や集落の様子、山仕事などの生活文化に関わることなどをまとめ、巨木マップ「木々と歩く～小田深山の道～」と紹介動画を制作。地域の歴史や魅力を知る手がかりとなっている。また令和3年の気軽に文化講座「コミュニティ・カレッジin内子」でも取り組みの発表があり、現地の痕跡や記憶の継承、活用の可能性について考える機会となった。



愛大生が制作した巨木マップ

③ 自己評価

登録有形文化財に登録された旧二宮製材所事務所兼主屋が、1日1組限定の宿として活用されるなど、小田林業に関する歴史的風致を伝える場が増えている。また愛媛大学の学生による調査研究活動で、9地区の巨木マップ「木々と歩く～小田深山の道～」が制作され、山と暮らしてきた小田地域の歴史的風致の魅力を再発見できた。

④ 今後の対応

歴史的建造物の保存・活用、住民参加のまちづくりなどで一定の成果が確認されたので、継続して事業を推進したい。ただ町内でも人口減少が著しい地域のため、マンパワー不足が慢性化している。地域を代表する「山の神祭り」や「燈籠まつり」が大幅に縮小されるなど、将来的には維持できなくなる可能性が高い。早急に農林業との横断的な連携や産業創出につながる仕組みづくりが求められる。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年
歴史的風致	3. 里山が育む村並みにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 歴史的建造物の周辺環境の保全・整備 III 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

里山の自然・歴史・生業・文化を含めた地域性を「村並み」とし、環境保全型農業の振興等を図っている。麓川流域や御祓地区・泉谷の棚田、立石地区・尾首のため池、和田地区の柿栽培などが、「村並み」の象徴的な風致である。この村並みの保存に最初に取り組んだのが石畳地区。地域住民による「石畳を思う会」が中心となり、水車の復元や蛸の保全など、失われかけた麓川流域の歴史的風致を今につなぐ役割を担ってきた。今も残る屋根付き橋や石垣・石積み、棚田、堰などは、先人の知恵や工夫、思いまでもが見ることができる美しい風景であり、そこで営まれる農業や林業などとともに、将来へつなぐべきものである。

② 維持向上の経緯と成果

《弓削神社の修繕（歴史的建造物の周辺環境の保全・整備）》

令和5年12月、石畳地区にある町指定名勝「弓削神社の境内」の屋根付き橋の橋脚を修繕した。作業は、6本ある橋脚のうち、境内側にある2本を取り換えるというもの。数十年に一度必要な作業で、氏子である地域住民の手によって行われている。材料はこれまでの伝統にのっとり、地域の山に自生している栗の木を利用。作業風景は広報うちこ令和6年1月号などでも紹介された。修繕された屋根付き橋のある弓削神社では、日参まいりや春神楽などの変わらぬ営みが続けられ、地域の歴史的風致の維持にもつながっている。



屋根付き橋の橋脚を修繕（R5年度）

《伝統芸能まつり（伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承）》

内子町伝統芸能まつりは、町無形文化財の立川神楽や中川万歳など、地域で活躍する伝統芸能継承団体が一堂に会し、互いに貴重な伝統芸能を披露する機会となっている。愛媛・大分交流事業などとも連携し、団体間や地域間の交流、次世代の継承が図られている。令和5年度で第10回目を迎えた。2・3年度はコロナ禍で中止となったが、この5年間で延べ14団体・203人が参加、800人が来場。地域に伝わる技を人々に広める機会は、継承団体の活力にもなっている。



第9回伝統芸能まつりの様子（R4年度）

③ 自己評価

住民団体等が主体となり長年続けてきた活動が、内子町の歴史的風致の維持向上に大きく貢献している。町としても伝統芸能まつりや企画展の開催、調査研究や活動記録などを通じて、取り組みの継続を支援している。

④ 今後の対応

伝統芸能や祭礼などを通じたコミュニティの活性化は、村並みの歴史や文化、自然を守ることにつながる。併せて地域特有の生業を守るためには、資金や担い手の不足を解消することが大切。石畳地区が挑戦している栗のブランド化のように、稼ぐ力のある仕組みづくりを増やして、収益と雇用の向上を目指すことで、村並みの歴史的風致の維持・向上に努めたい。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年
歴史的風致	4. 大瀬「森のなかの谷間の村」の営みにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承 Ⅳ 歴史的資源の調査研究、周知・啓発		

① 歴史的風致の概要

暮らしに根付く神社仏閣や祭り、風習、生業が今につながっている大瀬地区。ここで生まれたノーベル賞作家の大江健三郎氏は自らの小説の「原型」である「森の中の谷間の村」として大瀬を描いており、その風景を今に見ることができる。大江作品にも登場する、とぼしが森三島神社では秋の例大祭が開催される。境内では獅子舞が披露されるほか、神輿やダイバン、しゃぎりが集落を練り歩き、にぎやかで厳かな風致となっている。地元住民にとっても「森の中の谷間の村」は、ここならではの独特な空間を意味しており、その個性を維持向上させながら後世に継承しようとしている。

② 維持向上の経緯と成果

《とぼしが森三島神社獅子舞（伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承）》

毎年10月15日の秋の大祭で行われる獅子舞やしゃぎりは、地域の貴重な伝統文化として継承されている。令和元年には大久保獅子舞保存会が姉妹都市である沖縄・宜野座村を訪問し、同村の文化祭で獅子舞を披露。参加した子どもたちには貴重な体験となった。またコロナ禍を経た令和5年には、内子座で開催された内子町伝統芸能まつりに、しゃぎりと獅子舞の保存会が伝統の演技を披露するなど、その意義や魅力の共有が大瀬の歴史的風致の維持につながった。



とぼしが森三島神社の秋の大祭で披露されている獅子舞の様子

《大江健三郎氏関係（伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承）》

令和2年は星中神社の歴史調査を実施した。令和5年には、大瀬の山城（城の尾城跡）調査を実施。また愛媛県との共同調査「昭和期の生活文化調査」において、大瀬・成留屋の町並みや大江健三郎氏との思い出を記録し、デジタルアーカイブ化を図った。同年、内子町図書情報館が開催した特別展「大江健三郎氏の追悼展」では、約300冊の大江氏関連図書を展示するなど、森のなかの谷間の村の歴史的風致の維持・向上につながる取り組みが多く実践されている。



大江健三郎氏の著書を集めた本棚（図書情報館）

③ 自己評価

大瀬地区を構成する資源、伝統文化や歴史、痕跡、昭和の記録を通して、大瀬らしさを知る関係人口を増やす取り組みを意識的に行うことができた。令和5年の内子町伝統芸能まつり来場者アンケートからも、伝統文化が長く続くことを願う声が多く寄せられた。

④ 今後の対応

現代の営みにおいても、大瀬地区でしかない各種の構成遺産を次世代に継承できるよう、引き続き関係調査や記録、そしてその記録の公開を行い、大瀬の宝として関係機関と情報共有を図る。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1～5年
歴史的風致	5. 街道、遍路道にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承 Ⅳ 歴史的資源の調査研修、周知・啓発		

① 歴史的風致の概要

四国遍路における道、「遍路道」には「お遍路さん」が絶えず、地域ではお接待の風習が続いている。町内には数多くの大師堂が存在し、遍路沿いにあるものは番外霊場として遍路巡礼の立ち寄り所になっているほか、お接待の場や雨露をしのぐ休憩所、宿泊所として利用される。また町内の各地域には88カ所に石仏などを納め、お世話や一日巡礼を行う「新四国八十八カ所」が今に続く。お接待の日に合わせてお念仏を行うなど、地域の人が集う場にもなっている。ヒューマンスケールである歴史的な「道」を見つめなおすことは、これからのまちを考えるとときに欠かせない歴史的風致であるといえる。

② 維持向上の経緯と成果

《たどビレッジの整備(伝統産業や伝統行事・祭礼等、歴史的営みを反映した活動の継承)》

旧田渡幼稚園を改修した交流宿泊施設「たどビレッジ」が令和4年3月に完成し、4月にオープンした。田渡地区自治会連絡会が指定管理者となり、有志の住民が運営している。小田地区・突合から田渡・臼杵を経て下坂峠場へ出る遍路道沿いにある同施設は、お遍路さんやサイクリストの宿泊や休憩で利用されている。地域内には近隣の住民によって大切にされているお堂も多数あり、大師祭りの日には「たらいうどん」のお接待をしている。同施設の整備で地域の魅力発信や交流人口の増加が図られ、地域に根付いた遍路文化の歴史的風致の維持・向上につながっている。



元幼稚園を改修した交流宿泊施設「たどビレッジ」の外観と内観

《県歴史文化博物館企画展(歴史的資源の調査研修、周知・啓発)》

令和4年9月17日～11月27日の間、愛媛県歴史文化博物館において特別展「浄土寺・浄瑠璃寺と写し霊場」が開催された。写し霊場とは江戸時代以降に四国八十八カ所霊場を模倣して地方に開設されたもので、特別展では立川新四国、御祓新四国、内子・城廻新四国八十八カ所が紹介された。内子町歴史的風致維持向上計画の内容が県の学芸員の目に留まり展示につながったとのこと。「遍路道ウォーク」なども紹介され、遍路文化の理解の一助となっている。

③ 自己評価

たどビレッジの宿泊者数は約200人で、年々増加している。最近では外国人客の利用も多い。地域の祭りに参加するため、帰郷した人が利用することもあるとのことで、交流人口の増加にも成果が見られた。情報発信による効果が認められる事例もあったことから、町蔵資料や情報の活用や公開がしやすい仕組みづくりを継続したい。

④ 今後の対応

四国遍路の世界遺産登録を目指した動きに合わせて、町内でも測量調査等を開始する予定。実現したときの波及効果は大きいと思われるので、町としても積極的に協力していきたい。また柿原地区では独自の新四国の調査を行い、高齢者サロンの行事として写し霊場が活用されている。今後も独自のお接待文化を守りながら、地域のコミュニティづくりに寄与する活動と連携していきたい。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～5年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

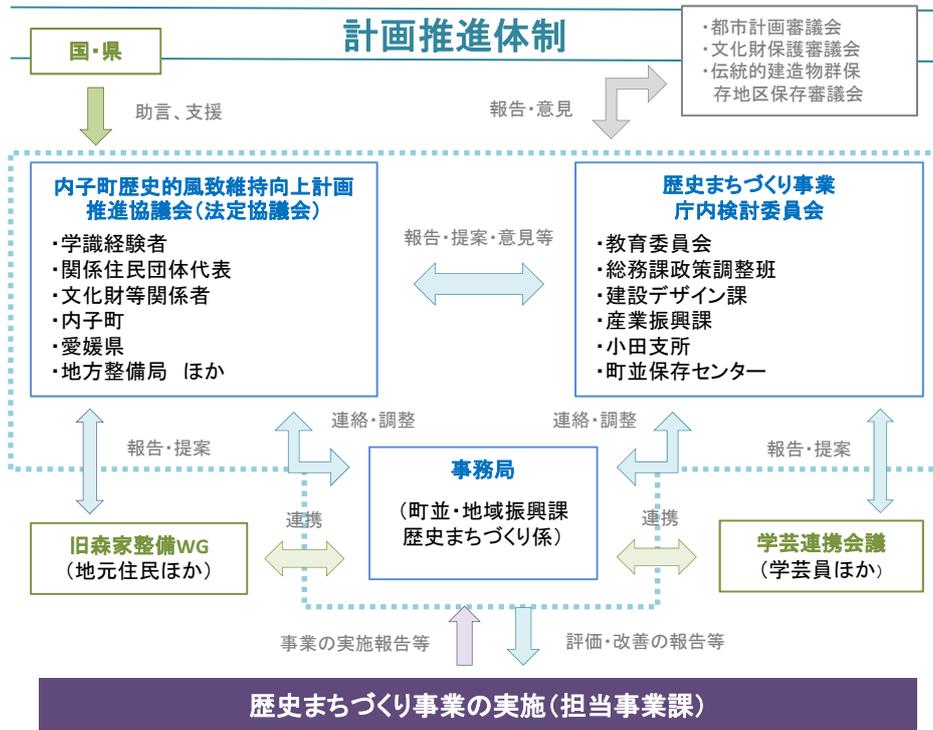
歴史的風致維持向上計画策定時の同策定委員会を「内子町歴史的風致維持向上計画策定協議会」（法定協議会）に移行し、進捗評価や事業間調整を行っている。八日市・護国町並保存センターが事務局から外れるなどの若干の変化はあるが、現在は教育委員会、総務課政策調整班、建設デザイン課、小田支所、町並・地域振興課が中心となる組織で、事務局は町並・地域振興課歴史まちづくり係が担っている。会議は年1～2回開催し、事業計画の確認や前年度の進捗評価の報告などを行っている。推進協議会の下部には、検討内容に応じてワーキンググループを設置。現在は旧森家住宅の活用について、関係住民と連携して協議を進めている。また令和6年からは庁内検討委員会に係る担当職員で任意の「学芸連携会議」を立ち上げ、事務担当レベルで情報交換などの連携を図っている。



法定協議会の会議の様子



令和6年から開始した学芸連携会議



② 庁内の意見・評価

- ・講座や展示替えなどの学芸員活動について、密な連携を行いたい。学芸員だけでなく各評価シートの担当者が行っているような活動について、情報共有の場をもっと設けた方がよい。
- ・庁内検討委員会のような大きな場だけでなく、より柔軟な情報共有の機会が必要と考えていきたいので、立ち上げた学芸連携会議の今後の取り組みに期待したい。
- ・庁内体制としては上手くできている。各課も協力的で事業成果についてよく把握できるのがいい。ハード事業の進め方などについては、都度協議することができるわけではないので、評価・改善の報告等による連携のみである。この辺りは改善の余地があると思う。
- ・毎年の進捗管理や今回の中間評価など、町の歴史的風致に関する取り組みがよくまとまっている。とてもいいものだけに、もっと地元の人たちへ浸透させる方法も検討するべき。

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～5年
① 住民意見			
◆総合計画策定時の住民アンケート調査(R5年9月実施)から一部抜粋			
<ul style="list-style-type: none"> ・県外に出ると、改めて内子町の良さを感じる ・子どもたちにとって安全な遊び場がほしい。医療や支援の充実など、子育てしやすい町にしてほしい ・小さいながらも魅力のある町だと思う。今後も少しずつ発展して、さらに魅力ある内子町になってほしい ・若い人が「住んでみたい」と思う町の魅力とは何かを、さまざまな角度から追及していく必要があると思う。 ・コロナで行事が中止され寂しくなっていたが、花火大会の開催で元気をいっぱいもらった。若者が「内子が好きだ」と大きな声で言ってもらえる町になってほしい。 			
◆広報うちこのモニターアンケートから一部抜粋			
（令和5年10月号「特集：夏の笑顔をくれる裏方のヒーロー」）			
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事を継続するという事は、以前からの方法を大切に守りながらも新しい方法も取り入れなければいけないと感じた。継承者育成も大きな課題。町の祭りの魅力や楽しさを子どもたちにも伝えていきたい。 ・「いのこ」や「みこし」を復活させた人々は、幼少期の経験から、わが子にもあの経験をしてほしいから動いたと聞くことが多い。地域での交流がなくては伝統行事を続けることはできないので、勇気をもって地域行事に参加していきたい。 			
（令和6年2月号「特集：Time Trip!」）			
<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも行けると思いながら中々行けていない伝統文化施設。魅力がとても分かりやすく書かれており、この春にはぜひ行ってみようと思った。イベント情報を参考に、ぜひ参加したい。 ・上芳我邸・内子座・商いと暮らし博物館の入館が無料になっているのを知らなかったの、何度か行ってみたいと思った。内子が後世にまで残していきたい景観、大切にしなければと改めて感じた。 			
		— 広報うちこ令和5年10月号の紙面	
② 協議会におけるコメント			
◆過去5年間の法定協議会で行った進行・管理評価、令和6年5月21日に実施した中間評価で議論していただいた内容の中から、以下のような意見をいただいたので抜粋して掲載します。			
<ul style="list-style-type: none"> ・「小田川が結ぶ小田林業と山とともにある営みにみる歴史的風致」に関連して、小田深山に新しい施設が計画されていると聞く。歴史や自然に悪影響を与えないデザイン、整備内容にするよう心がけてほしい。 ・登録有形文化財に登録された「旧高橋家住宅」は離れや石垣も含めて、質の良い住宅。宿泊施設などとしても活用されて状態もよいので、歴史も語りながら今後も活用を続けてほしい。 ・人の流れが復活する中で、内子座の改修や旧森家住宅の整備、森文工場跡地の公園整備など、いろいろなことが一斉に動き出している。歴史的風致向上計画をベースにして内子のまちづくりがぶれないよう、町民が幸せになるよう、保存と活用を進めていければと思う。自分もプレイヤーの一人として取り組んでいく所存。 ・職人の技術者育成について、歴史的な建造物の保存活用には左官や大工などの技術者が必要。ぜひ意識的に育成してほしい。 ・住民の参加が継続的に行われるような枠組みが必要。単なるぶつ切りの事業ではなく、長いスパンで住民と一緒に育つような計画性のある事業であることを願う。 ・全体としてよく取り組んでいるという感想。中間報告の5年間は、町で行われてきた歴史と文化に関する事業全体を見せてくれている。歴史文化白書のようなレポートにするなど、何かうまい工夫をして町民の皆さんにもいろいろな歴史的・文化的な動きがあります、というのが広く伝わるような材料にしてもらえるといいかなと感じた。 			

市町村名	内子町	評価対象年度	R1年～5年
<p>① 全体の課題</p> <p>1_歴史的建造物に関する課題</p> <p>候補物件が2棟取り壊されてしまった。歴史的な風致を維持してきた建造物の中には個人等が所有するものが多く、維持が難しい。価値が理解されていないものもあり、維持管理ができないまま老朽化が進んでいる。民間の活力が生かせる仕組みづくりなど、対策が早急に必要。</p> <p>2_歴史的風致に関わる住民活動の課題</p> <p>住民の減少や高齢化の影響を受け、伝統行事をはじめとする歴史的風致を支えてきた活動が困難になりつつある。当計画期間だけではなく、継続的な事業展開や支援が課題である。</p> <p>3_事業推進体制の課題</p> <p>年度単位での連携は十分に取れているが、学芸員活動などの取り組みごとの連携や、日ごろの情報共有などの方法について検討の余地がある。特に建設デザイン課などハード事業を担当する職員との連携が課題である。</p> <p>4_歴史的風致の認識に関する課題</p> <p>住民の皆さんが歴史的風致について理解して、これからも一緒に歴史や文化を創り上げていくものである。波及効果についても住民側の活動としてのものがたくさん挙げられるようにすべき。進行管理・評価シートのホームページ掲載だけでなく、より分かりやすく身近な方法で伝えることを検討する。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完了していない事業について鋭意に取り組むとともに、第2期計画の策定を視野に歴史まちづくりを継続していく方法を検討する。 ・歴史的建造物の調査等を進めて、その価値を示しながら保存・活用を図る。個人所有の建物を活用するハードルがいくつかあるので、一つ一つ解消しながら壊す以外の選択肢を増やせる活動もしていきたい。 ・歴史的風致の維持・向上を支えるのは地域の活力である。基盤となる産業を守る取り組みも強化し、収益と雇用の向上を目指す必要がある。技術的・財政的に支援できないか検討を続ける。 ・学芸員を中心とする職員同士のつながりを強化する。自主企画展の開催など、歴史的資源の調査や周知・啓発に力を入れていく。歴史的風致維持向上計画の推進に係る進行管理・評価についても広く住民に伝えられるよう工夫していく。 			